

実践例 「学習指導の充実・深化」 「課題7 学ぶ意欲を高める指導方法の改善・充実」

I. 学校名 乙部町立明和小学校

II. 研究の概要

国際化の進展、価値観の多様化など、社会の急激な変化を背景に、学校教育においては、課題を見出し解決する力や知識・技能を更新し生涯にわたって学ぶ意欲など、変化に対応するための能力を育むことが求められている。

また、学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の習得を基盤とした思考力・判断力・表現力の育成と学習意欲や生活習慣の確立が求められており、そのため、課題解決能力、情報処理能力、コミュニケーション能力などを身につけることがこれからの学校教育推進にあたっての重要課題である。

本校の教育目標は「心深く学ぶ子」「心美しくやさしい子」「心明るくたくましい子」であり、重点教育目標は「よく考え、進んで自分を表現する子」である。「よく考える」とは、子ども自らが「進んで学び続ける」(個人思考的価値)ことであるがそこにとどまらず「ともに進んで学び続ける」(他者思考的価値)や「みんなで学び続ける」(集団思考的価値)ことにも視点を当てて考えることが大切である。

児童がこれらの価値やよさを実感し、より高い学びを獲得するためには、わかる喜びを実感し、自ら考えを創造し、それを活用しながら、自分の考えを表現する力を育成することが必要だと考えた。

本校では、2～5学年が一人学年であり、そこでの学び方についても指導の仕方を工夫していく必要がある。算数科における自分の考えを進んで表現する学習指導の在り方について研究を進めることにより、子どもたちにわかる喜びを感じさせ、主体的な学びや豊かな表現力を育むことができると考え、本研究主題を設定した。

1. 研究主題

自分の考えを進んで表現する学習指導の在り方
～わかる喜びを感じさせ、一人ひとりを伸ばす算数科授業の創造～

2. 研究仮説

- 仮説1 算数科の学習において、基礎的・基本的な学力の定着を図り、学習課題や授業の展開を工夫することにより、わかる喜びを実感し進んで学習する態度を育むことができるであろう。
- 仮説2 算数科の学習において、思考過程を明確にし、適切な方法を選択して説明することにより、一人ひとりの学習への意欲や自分の考えを表現する力を高めることができるであろう。

Ⅲ. 実践例

1. 学習過程の工夫 ～子どもたちにも見える学習過程～

学習の見通しが持てるよう学習過程を明示し、安心して学習に取り組むことができるようにする。



① 学習過程

過程		探究型学習	習得型学習
1	①あて	つかむ・見通す	つかむ・見通す
2	②考 ③習	考える	身につける・習う
3	④とめ	確かめる (学習したことを一般化)	確かめる (学習したことを一般化)
4	⑤ろげる ⑥り返す	広げる 練習問題・発展的な問題	繰り返す 練習問題・発展的な問題
5	⑦り返る	学習のふりかえり 感想・自己評価など	学習のふりかえり 感想・自己評価など

② 本時の学習の展開の工夫 (本時案)

学習過程を意識した授業作りの5つのポイント

【目標設定】学習後に何ができるようになっていくのか、わかるようになったかを具体的にイメージする。

【課題設定】目標を達成できるような工夫ある課題を設定する。

【見通しの時間の設定】課題解決のための手段や方法を明確にし、解決の時間につなげる。

【適用問題】目標にあった適用問題を準備し、十分に時間を確保する。

【算数用語】式や記号、用語を正しく使い表現できるように意識させる。

2. 統一した指導 ～学習のきまりの徹底と授業交流～

① 学習のきまりを全学級で統一し徹底するとともに、黒板の周りの掲示物は少なくし、机を整え、児童が集中しやすい環境づくりをする。

② 3学級の授業交流を通して、これまでの授業や研究の取り組みをふりかえり、改善しながら研究をさらに進めていくことができた。授業交流時、参観者は参観シートへ記入し、授業者の授業作りに生かすことができた。

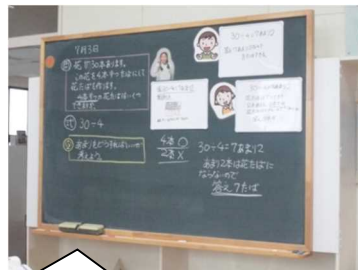
授業参観シートの 月 日 曜日 時間目 (年) 授業者
 ○ 研究主題 自分の考えを導んで表現する学習指導のあり方
 ～わかる喜びを感じさせ、一人ひとりを伸ばす算数科授業の創造～
 記入者 ()

項目	内容	気づいたこと
学習過程	①学習のねらいが子どもたちに伝わっているか、また、学習のねらいにあったままとゆきしているか。	
	②学習過程を表示し、授業の死蔵しを補正しているか。	
	③本時の学習の進めを振り返るため、発展問題や応用問題の活動を取り入れているか。	
授業の工夫	④授業の進めがわかる、わかりやすい板書がされているか。	
	⑤考えをまとめたり、伝えたりする場面を設定しているか。	
	⑥授業の発表や説明に対して、適切な対応をしているか。(結論や理由が述べられているか)	
参観指導	⑦参観者の発表や説明を聞き、評価に生かすために、同時間接指導を行い適切に指導しているか。	
	⑧多様な考え方を知る場面を入れているか。	
	⑨一人学習の発表の仕方を工夫しているか。	
関心	⑩学習後の振り返りを行わせ、学習内容の理解や把握をさせているか。	
	⑪学習のきまりを徹底し、必要な場合に指導していたか。	
指導	⑫参観者の発表や参観者の言語環境が児童の安心感につながっているか。	

※この授業で取り入れてみてほしいこと。 2)より授業に生かすためのアドバイス。

3. 一人学習の充実 ～表現力向上と自主的な学習の充実～

一人学年が多いため、多様な意見や考えに触れたり、説明をして伝えたりする機会が授業の中では少ない。そのため、様々な考えを知ったり、考えを比較したりする場面を設ける。また、発表力を向上させるために、算数用語や話型を意識した発表の仕方を指導し、課題把握や発表場面で実物投影機などのICTを活用していく。



ホワイトボードの活用：多様な意見を事前に準備しておき、児童が自分の考えと比較する場面を意図的に授業の中に取り入れた。

- ① ホワイトボードや実物投影機の活用
- ② 算数用語と話型

系統的に全学年の単元をまとめ、学年に応じた算数用語を整理し、授業で使えるようにカードを作成した。思考過程をまとめる上でも、整理された話し方と算数用語を適切に使うことが大切だと考える。

	順番を説明する	理由と結果を言う	例をあげる 具体化する	予想する
1 2 3 年	はじめに、次に、最後に…。 そして	…だから～です。 そのわけは…だからです。	—	—
4 5 6 年	はじめに、次に、最後に… まず、…、次に…	…だから～です。 そのわけは…だからです。 なぜなら…	たとえば…	おそらく、～だろう もし、～だったら、… です。

B 量と測定

学 年	内 容	算数的用語・記号等
第1学年	○量の大きさの比較	なんじ、なんじはん どちらが、いくつぶん
	○時計の読み方	
第2学年	○量の単位と測定	mm, cm, m mL, dL, L 日、時、分
	○時間の単位 日、時、分	
第3学年	○いろいろな単位と測定	Km, g, kg, t 秒
	○計器による測定	
	○時間の単位(秒)	
	時刻や時間の計算	
第4学年	○面積	cm ² , m ² , km ² , a, ha
	○角の大きさの単位(度°)	
第5学年	○面積	cm ² , m ²
	○体積	
	○測定値の平均	
	○単体量当たりの大きさ	



授業の中で児童が適切に用語を使えるように、学習の中でおさえておきたい算数用語を事前に準備している。児童の言葉を使って学習のまとめをする場合も、必要な用語を適切に使用し、児童の発言の中でも正しく使用できるよう指導している。それらの指導のためにも系統表は確認する上でも有効である。

4. 算数への興味関心 ～実態調査とふりかえり～

算数に関するアンケートを1年に2回実施し、実態や変容をみる。また、設置している算数コーナーは子どもたちの興味を持続できるよう改善していく。

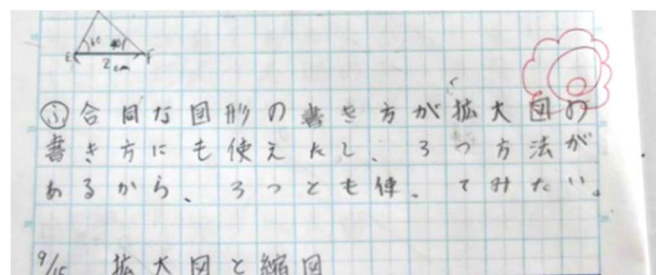
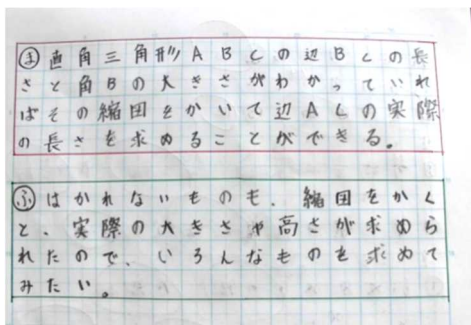
授業後には学年に応じた[ふりかえり]を行うよう努力し、学んだことを確認し、次の学習への見通しを持てるよう意欲を高める工夫を行う。

① 算数に関するアンケートの実施（5月、12月）

② 「ふりかえり」の設定

授業終末に学習や活動をふりかえることで、児童が本時（または前時）で身につけた力を確認し、次の学習の見通しを持つことにつながるのではないかと考える。しかし、複式の学習では時間確保が難しいのが現状である。よって、学習の始まりに、前時のふりかえりを行うような流れを組む場合もある。

低学年は記述することが難しいため、授業の終わりに発表して交流しあう方法で行い、中学年以上はノートに記述している。



③ 算数コーナーの設置

算数コーナーには、分数パズルやタングラムなどを置き、休み時間に自由に算数教材に触れる環境を作った。また、数に関する自由プリントも置き、児童が自主的に選び、取り組む姿も見られた。



IV. 成果と課題

1. 実践の成果

- ・ホワイトボードや実物投影機を活用することで、児童の発表意欲を高め、効果的に伝える方法を身につけることができた。
- ・学習過程を明確にしたことで、統一した授業の流れを確立することができた。
- ・一人学年への指導方法についても研究を進めることができた。

2. 実践の課題

- ・本時の児童の主体性を尊重した課題設定の工夫や「ふりかえり」の時間を確保するための具体的な方策について研究を進める必要があった。